

鮮烈な記憶シリーズ第1回

心に残る思い出

32, 3年前のシーンだが、80歳になった今でも鮮明に脳裏に刻まれており、時にその記憶がよみがえる。それは、ある広告主のために歌手高橋真梨子と映像・楽曲を広告とPRに使用する契約を行った関係で、「高橋真梨子コンサート in カーネギーホール」に立ち会った時のことです。コンサートのチケットはほぼ完売、聴衆は恐らく単身または家族同伴の日本人駐在員の方々のような様子でした。そこここで楽しげに会話する声が聞こえていたが、コンサートが始まり高橋真梨子が登場し歌いだすと、ホールはなんとも言えないどよめきに包まれました。「あなたの空を翔びたい」「ジョニーへの伝言」「ごめんね」等が歌われているうちに、涙ぐむ人が増え、会場に感涙の熱気が高まりました。そして、トリの「五番街のマリーへ」になると会場は手放して涙ぐむ人だらけになったのです。異国で苦勞

して仕事や勉強をしている皆さんの日本での思い出を呼び起こし、郷愁の念を高めたのでしょうか。あの頃は未だ海外、なかなかアメリカでのビジネスの尖兵としての生活には辛いものがあつたと推察されます。私も惻隱の情にかられ、思わずじんとなりました。翌日の「ニューヨークタイムズ」を見ると、「日本人歌手高橋真梨子は情感のある素晴らしい歌手で、会場の聴衆を虜にした。しかし、楽曲はロスの工房でコンピューターで作れるようなものだ」とありました。因みに、高橋さんは昨年11月の「ラストコンサート」をもって歌手を引退したとのことです。



カーネギーホール

64年文卒 宮内徹也

コロナと人の繋がり

2020年初頭、世界がコロナ禍に見舞われてから、早くも3年弱の月日が経ちました。人との接触到「不要不急」のラベルを貼りつけたコロナ禍は、私たちのつながりのあり方を大きく変えました。ここではその影響と地区のつながりについて簡単に考えましょう。

コロナと他の災害の違いはいろいろありますが、その一つとして、「災害の前後がはっきりしない」ということがあげられます。この特徴は、人間関係のあり方に少なからぬ影響をおよぼします。

戦争や地震などの災害であれば、「戦前と戦後」あるいは「震災前と震災後」などと、比較的はっきり前後の区別をつけられます。コロナはその点において他の災害と大きく異なります。コロナ「後」の判断が個人に委ねられているのです。

外出や外食などの行為を優先したい人は、早い時期から積極的に外に出かけるようになり、感染に気を遣う人は外出やマスクの着用などにかなり気を遣います。コロナの終息に対する感度が異なるため、人と会うこと、集まりに参加することに温度差が生まれます。誰

がどのような温度感でコロナに接しているかもわからないため、なかなか声もかけられません。

人との接触が「不要不急」に位置づけられるなか、「自分にとっていま会うべき人は誰なのか」と、「人間関係の棚卸し」をした人もたくさんいました。誰かと直接会うためには、会うに足るだけの「価値」を求められるようになったのです。コロナに対する温度差や「人間関係の棚卸し」を通じて、人との間に壁ができ、懇親はなかなかしづらくなりました。

そんななか、重宝されたのが、徒歩圏内、自転車圏内など近場にあるつながりです。近くにいる日常的にも顔を合わせやすいつながりは、比較的声をかけやすく、また、地元ならば都心に出るほどの抵抗感もありません。流山稲門会をはじめ、地元のつながりを活かしつつ、適度な交流を保って頂ければと思います。

早稲田大学文学学術院 文化構想学部 教授 石田光規 (6区)



保育園でサイエンスの先生

保育園でサイエンス(科学)の先生を続けて4期目になります。サイエンスの先生とは4歳児(年中)と5歳児(年長)の園児を対象に実験内容を企画・検討し、毎月6回程担当する保育園を訪問して実験指導等を行うものです。

実験の一例ですが、園児に割箸とビニールテープでレールを作ってもらい、その上でビー玉を2個、3個、4個、5個、…と衝突実験を行って、ニュートンの運動の法則を体感してもらいます。

また、別の実験では、ビニールチューブとミニロート、風船の切端で簡易な聴診器を組立て、園児に自分の心臓の音を聞いてもらい、脈拍数が運動前と後でどう変化するかを測定してもらったりしています。

昨今では科学以外にも数学的な要素やエンジニアリング的な要素を取り入れたカリキュラムも実施しています。ただ、私が何よりも大切だと思っていることは、園児が実験に参加して楽しめるか否かです。実験終了後に私に園児が寄ってきて、「先生 今日楽しかったよ」と一言掛けられると、古希になった私は大いに元気をもらいます。楽しみながら実験を行うことにより、園児が少しでも科学に対して興味を持てる機会になればと願っております。

77年理工卒 三谷成二



流山稲門会会報

流山稲門会会報

発行責任者 会長 高橋孝志

入会は随時受け付けております。ホームページのバナー「入会をご希望の方へ」からご連絡をお願い致します。



流山稲門会HP

流山稲門会設立20周年記念式典開催さる



高橋会長

設立20周年記念行事第一部の記念コンサートが、予定時刻より20分以上早く終了して慌てたものの、役員の皆さんによる観客の送り出しや式典会場への誘導等が手際よく進み、第二部の記念式典・懇親会は、予定より約10分早く開始しました。開会まで大学の校歌・応援歌等の楽曲集をBGMとして流しました。司会者は、本日の進行について、井崎義治流山市長がご家族のコロナ感染で欠席となったことについて説明しました。石井幹事長による開会の辞に続き、高橋会長が、「入会した10年前当時



田中弘美教育長

には、20周年記念式典で会長として挨拶している現在の自分を想像できなかった」とこれまで活動してこられた諸先輩・大学・校友会支部・近隣稲門会に感謝の意を伝え、続いて、ご出席頂いたご来賓の方々を紹介しました。ご来賓挨拶では、先ず早稲田大学千葉県地域コーディネーター鈴木勉様、続いて千葉県支部の唐松公三様、そして、第一部のコンサート実施に際し、多大なご後援を頂いた市教育委員会の田中弘美様からは「本日第一部のハイソとのワー



齋藤健 現法務大臣

クショップは、中学生の大きな励みになったことと、数年前の平和教育等流山稲門会の地域への活動に感謝する」旨の祝辞を頂きました。柏稲門会の田中博昭様に、乾杯のご発声をお願いしました。流山稲門会では、2019年の交流会以来3年振りの乾杯です。ビールが旨い！先ほどのコンサートで素晴らしい歌声を披露してくださったスペシャルゲスト歌手の山口葵さん、ハイソマネージャー鈴木悠さんも合流して、さあ、懇親会の始まりです。懇親会中は、早稲田大学トピックス2021-2022の映像をお楽しみ頂きました。ここで、齋藤健



衆議院議員(現法務大臣)が、ご多忙の中駆けつけてくださり、「卒業してからも学生時代の話ができる。早稲田っていいな！」というご祝辞をいただきました。久しぶりの立食パーティです。皆さん、話も弾み、大いに盛り上がり上げて頂けたと思います。一方で、入口での体温計測、マスク着用の徹底、消毒薬の設置、極力大皿料理を減らし、手袋の配置など感染防止にも可能な限り努めました。設立時の会員で、本日もご出席いただいた会員19名を紹介しました。初代会長の西川誠之さんが、設立当時の思い出を語り、改めて20年の歳月の重みを感じました。お楽しみ福引抽選会は、今回も東日本大震災復興支援を継続して、「SAVE IWATE」から購入した賞品にて、A賞5名、B賞15名が当選し、お持ち帰り頂きました。校歌斉唱は、2年半振りに制約のないものとなりました。大学応援部のDVDに合わせて、大きな声でゆっくりと、3番までの感動の校歌でした。最後は、牛島副会長の中締めにてお開きとなりました。式典・懇親会の出席者は、会員66名、校友1名、ご来賓15名(大学1名、流山市1名、代議士1名、千葉県支部1名、近隣稲門会11名)、ハイソ関係者2名の合計84名でした。会場での震災復興支援の募金箱に53,700円が集まりましたことを報告致します。ご協力頂き、誠にありがとうございました。 80年法卒 須賀勝己



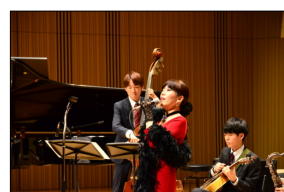
西川誠之 初代会長

流山稲門会設立20周年記念事業 早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラコンサート開催

この度の記念コンサートによって、ハイソサエティ・オーケストラ(ハイソ)の70年近い歴史の中で初めての流山公演を実現することができました。加えて市内中学校吹奏楽部の皆さんへの支援活動(ワークショップ実施とコンサートご招待)やボーカリスト山口葵さんとの共演という近年のハイソ活動にはなかった特別のものとなりました。教育委員会はじめ地域の皆様方から賜ったご支援にあらためて感謝申し上げます。また、会員の皆様にもチケットの購入や寄付金などたくさんのご協力をいただきました。コロナ禍のこの2年、ハイソは多くの演奏機会が消失、練習もままならないという、メンバーが毎年入れ替わる学生バンドにとって試練の日々が続きました。今年に入り、3年ぶりに開催された山野ビッグバンドジャズコンテストで第3位を獲得、その後、再開された各公演で腕を磨きながら流山のステージに登場となりました。コンサートは、ハイソの迫力あるビッグバンドサウンドがホール全体にみなぎり、山口さんの味わい深いジャズボーカルも加わって、観客の皆様はきっと満足され、楽しんでくださったのではと思っています。早稲田の誇りの一つであるハイソが、これからも学生ビッグバンド界のリーダーとして活躍し続け、新たな歴史を刻んでくれるものと確信しています。



早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラ



山口葵さん

72年法卒 企画委員長 渡辺省三



ホールはほぼ満席